＜平成２５年度＞　　練馬区立大泉第二中学校

学力向上を図るための全体計画

＜都教育委員会目標＞

子供達が、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願う。

＜区教育委員会目標＞

人間尊重の精神を基調とし、学校教育と社会教育との緊密な連携のもとに、心身共に健康で知性と感性に富み、人間性豊かな子供の育成を図る。

学校の教育目標

人間尊重の精神と国際社会人としての資質・能力を身に付け、人間味に溢れ、自ら考え、判断し、行動できる「人」づくりの達成を期するために、教育活動のすべての場で、教育目標の具現化を目指す。

・よく考える人になろう
・進んで行動する人になろう
・責任感の強い人になろう
・豊かな心をもった人になろう

＜保護者の願い＞

・基礎学力を身に付けてほしい。
・感謝と思いやりの心をもつ人に育ってほしい。

＜教師の願い＞

自己理解を深め、自ら判断し行動できる人に育ってほしい。

＜地域の実態＞

学校への関心や期待が高く協力的である。

各教科の指導の重点

○個に応じた指導の充実に取り組み、より一層基礎的・基本的な内容の定着を図ります。
○社会の変化に主体的に対応できるように、体験的な学習や課題解決能力の育成を目指します。

本校における「確かな学力」

学習指導要領の改訂に伴い、教育理念である「生きる力」をはぐくむための、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を重視し、言語活動の充実や健やかな体の育成を図り、調和のとれた生徒の育成を目指します。

＜授業改善への取り組み＞

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
② 体験活動を重視した学習や課題解決学習を積極的に進め、社会性を伸ばし、課題解決能力の育成を図ります。
③ 学習意欲を高め、家庭と連携を図りながら学習習慣を身に付けます。
④ 評価規準に基づいた適正な評価・評定を行います。

（指導と評価の一体化を図る計画の作成）

道徳の指導の重点

○望ましい人間関係を築き、個性を伸ばし、充実した生き方を求める力を養います。
○道徳的な心情や判断力、実践力の育成を図ります。

特別活動の指導の重点

○望ましい集団の形成を図ります。
○個性の伸長を図るとともに自己実現を目指す力を育成します。
○自主的、実践的な態度を培います。

総合的な学習の時間

○生徒一人一人の興味や関心に応じた課題や生き方を考える場の設定に努めます。
○自らの課題を主体的に見付け学び、解決しようとする態度の育成を目指します。

生活指導の重点

○基本的な生活習慣の定着および規律ある集団行動を目指した指導を徹底します。これらの指導を通して社会の一員としての自覚を育てます。
○他者を思いやり自然を愛する指導、ボランティア活動への積極的な参加を促す指導を通して、環境を保全する心や物を大切にする心を育てます。

進路指導の重点

○生徒一人一人が自分の個性や能力を知り、良さを伸ばしていけるように生徒の発達段階および個性に応じた適切な進路指導を行います。
○体験的な活動を積極的に取り入れることによって、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせるとともに、生涯にわたって学び続ける姿勢を育てます。

本校の授業改善に向けた取り組み

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・わかる授業、個に応じた指導への取組 ・評価計画の研究 ・補充、発展学習の充実 ・授業改善推進プランの活用	・朝読書の充実を図りながら、落ち着いた学習態度の育成 ・長期休業中の学力補充教室 ・授業時数の確保	・校内研究授業を実施し、指導方法の研究を深め、生徒の主体的で意欲的な学習活動の推進 ・小中一貫教育を推進し、授業力の向上を図る。	・目標に準拠した評価を適切に行なうとともに理解を深める研修 ・指導と評価の一体化	・基本的な生活習慣の定着 ・家庭学習の定着 ・道徳授業地区公開講座を通した心の教育を推進 ・小中連携事業を推進し、小学校との学びの連続性を図る。

様式2

国語の学習状況の実態および内容別・観点別の分析表（中学校）

	学習状況の実態	学校の結果の分析	内容別・観点別 結果の分析
第１学年	・学校の授業には、ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいる。 ・漢字の読み書きや、「読む」に関して、不十分な生徒が比較的多く見受けられる。 ・発表時の声が小さい生徒が多い。	・学校での授業の受け方には問題ないものの、小学校で学習する内容を十分に身に付けていない、もしくは覚えきっていないものと思われる。家庭学習の習慣がついていない生徒も多く見受けられる。 ・大きな声で発表するという習慣ができていない。自信がないことも影響している。	・漢字テストを定期的に行い、小学校段階で不十分だったところを復習させる。 易しいところから始めて、自信をもたせる。文章の読み取り方を繰り返し指導する。 ・発表時は、間違ってもいいから、大きくはっきり言うよう、意識させる。
第２学年	・漢字の学習や古文の暗唱など、やればできることに取り組まない生徒がいる。 ・文章を書く時、簡単な漢字が使えなかったり、決まったパターンでしか書けなかったりする生徒が多い。 ・自分の考えをもち、発表できる生徒が少ない。	・小テストなどを定期的に行い、そのつど評価し、意欲を高めていく。 ・読みやすい文章を書くことに注意させ、書く機会を増やして練習させる。 ・作品についてはある程度まで読み取ることができるが、深く読み取ったり、それに対する自分の考えをもち、発表することは苦手である。	・「関心・意欲」新しい単元や作品に入ったときに興味を示すことが多い。 ・「話す・聞く」時間の関係で、話す機会が限られてしまう準備の時間を取り、全員が話すようにしていく。 ・「書く」「言語」基本的な語句の使い方を知り、何度も練習していく必要がある。
第３学年	・漢字の練習や古文の音読によく取り組んでいる ・「書く」課題についても工夫して書こうとする意欲が見られるようになってきたが、パターンにはまった書き方から脱せない生徒も多い。 ・「話す」についてはまだハードルが高いと感じている生徒が多い。 ・「読む」力は少しずつついてきているが、長文に読み慣れない生徒が多い。	・毎時間の漢字練習や漢字プリントにはよく取り組んでいる。やはり書き取りにはやや抵抗感がある生徒が多い。 ・「話す」場面を積極的に取り入れ、要領よく話す、表情豊かに話すことを学ぶ必要がある。 ・詩歌の鑑賞や小説教材はよく取り組んでいる。さらに要約したり、構成を考えたりしながら読む訓練が必要である。	「関心・意欲」新しい課題には積極的に取り組む生徒が多い。 「話す・聞く」発言の声が小さく、自信がないとなかなか発言しない。 「書く」目的と方法を伝えて書き方を学んだ結果、意欲的にと取り組んだ。 「読む」教科書の文章以外でもいろいろな文章から主題を読み取ることができるようになってきた。

様式3

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	国　　語

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	・家庭学習の習慣がついていない生徒が多く、繰り返し学習する機会が少ない。 ・自分の意見を積極的に発表することが少ない。	・漢字テストでは、次回の範囲を解説し授業中に練習させるとともに、家庭でも学習できるようにする。 ・グループ学習を取り入れ、班や小グループ単位で発表させる機会を多くする。	・漢字学習では、小テストの結果、不十分だったところを発見させ、再テストに向けて学習する機会をもたせ、習慣化させる。 ・家庭学習用の課題としてワークを学習させ、適時提出させ点検する。
第2学年	・家庭学習として出している課題をやりきれていない・時間内に課題をやりきれる生徒が少なく、次の時間までの宿題となってしまうことが多い。 ・人の意見を聞き、それに対して自分の意見をもつことのトレーニングができていない。また、話すことが苦手である。 ・やればできることを途中で投げ出してしまうことが多い。	・漢字の小テストや課題の設定を定期的に行い、そのつど評価する。 ・漢字の練習やワークブックを活用し、自主学習の習慣をつける。 ・課題を明確にし、時間内でやれるような授業展開を考える。 ・多くの生徒がより多く発言できるように、発問の仕方を考えたり、時間を確保したりする。	・漢字の読み書きとともに熟語の意味を確認しながら文章を読み、理解を深めていく。また、学習した語句については、文章を書いたり、意見を述べる際にできるだけ使っていくように指導する。 ・発言の苦手な生徒については助言をしたり、少人数での発表をさせたりなどから始めてみる。
第3学年	・家庭学習や提出物を出せない生徒が依然として約1割いる。 ・型にはまった書き方はできるようになってきたが、独創性のある文章表現にまでは至っていない。 ・聞き方のポイントを押さえていない生徒が多く、メモが有効になっていない。 ・説明的な文章で要約したり、段落構成をとらえたりすることが苦手である。 ・長文への対応ができていない。	・出したものに対する評価をできるだけ早く確実に伝え、次の意欲につながるようにする。 ・互いの文章を評価したり、 いろいろな文章に触れたりすることで書き方を学び、よい点をまねる。 ・メモの取り方や要点を絞って聞くやり方を学ばせる。 ・段落構成のわかりやすい説明文から練習する。 ・長文であっても文章の読み方さえ、理解していれば要点を押さえて読むことができることを練習から体感させる。	・自学自習できる課題で自分のわかっていないことを確認させ、補充させる。 ・互いの文章を読み合って評価し、アドバイスを受けて書き直す。 ・積極的に話す場面と聞く場面とを作り、よい話し手、よい聞き手とは何かを考えて練習する。また対象者を意識して活動する。 ・読書の機会を増やすために、同じ本を読んでのブックトークをする。

様式4

全教科における授業（1単位時間）の配慮点

教科名	2年　国語　（　理解力1　的確に読み解く　）

指　導　技　術		観点別の授業改善の視点				
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○話す・聞く能力を向上させるための手だて	○書く能力を向上させるための手だて	○読む能力を向上させるための手だて	○言語についての知識・理解・技能
導入	・（授業規律）チャイム着席をさせ、授業の始めのあいさつが一斉にできるよう気を配る。出席確認をしっかり行う。 ・（板書）本時の目標について説明し、ねらいをはっきり伝える。 ・（発問）前時の内容の確認をする	・教師の説明に集中させ、本時にやることに関心をもたせる。				
展開	・（発問）生徒が答えやすいような発問を工夫し、積極的に答えられるような雰囲気を作る。 ・（ノート指導）後から見てわかるように、そのまま写すのではなく、工夫し見やすく書くように指導する。 ・（話し合い指導）意見が出やすいように助言をしながら、挙手をして発表させたり、指名をして発表させたりしながら進めていく。 ・（授業規律）人の意見や教師の説明を静かに聞くように指導する。 ・（板書）大切な部分は色チョークで印をつけたりして強調し、わかりやすくまとめる。できるだけ生徒の発言を板書に生かすようにする。 ・（個別指導）机間指導を行い、指導が徹底しているか、理解が進んでいるかを把握し、個別に働きかける。	・発問について自分の考えをもたせる。 ・よい発言やノート の内容は全体に紹介して意欲をもたせるようにする。	・全体にわかるように発言させる。（声の大きさ・内容・速さ・間など） ・人の話は静かに聞き、メモを取るように指導する。	・見やすく、わかりやすく自分の言葉でノート等にまとめるように指導する。	・教材文に線を引いたり、印をつけたりして、考えながら読ませるようにする。 ・音読をさせて漢字や語句を正しく読ませる。 ・語句の意味を正しくとらえ、内容を正確につかませる	・知識を確認するためのワークシートやまとめのプリントの工夫　をする。 ・定期的に漢字の小テストを行い、定着を図っていく。
まとめ	・（評価）内容を簡単に復習し、理解できたかなどの自己評価を行わせる。 ・（課題）次回までの課題を与え、提出期限を守るよう指導する。				・教材文を再読することで、読みを深めさせる。	・家庭学習に取り組めるように課題を出す。

様式2

社会科の学習状況の実態および内容別・観点別の分析表（中学校）

	学習状況の実態	学校の結果の分析	内容別・観点別 結果の分析
第１学年	地理、歴史とともに興味や関心をもって、全体的にしっかりと取り組んでいる。授業中もよく集中し、ノート等もていねいにまとめている。考える場面でも、いろいろと多面的多角的にものごとを考え、まとめようとしている。積極的に発言をし、表現をしようと努力している。	全体的には、基礎的基本的な事柄は定着している。発展的内容や応用的な内容となると、理解できていない生徒が見られる。1年生で、家庭学習もまだまだ定着していない部分も見られるので、今後の指導に力を入れていきたいと考える。また、自主的に学習する姿勢も育てていく必要があると考える。	内容的には、地理的分野より歴史的分野の方が、興味や関心が高いためか、よい結果が多く見られる。観点別に分析すると、関心・意欲・態度の観点や思考・判断・表現の観点は高いが、資料活用の技能や知識・理解の観点は低い傾向が見られる。
第２学年	全体的にはしっかり取り組もうとする姿勢はあるが、関心・意欲という点では、個人差が大きく、自発的な発言などは決まった生徒に偏りがちである。作業的な学習は単純なものはよく行うが、思考力を伴うものはやや苦手である。	基礎基本的な事柄については、比較的定着しているが、発展的な内容や資料を読み取り、そこから自らの考えを導き出すような問題は、苦手な傾向がある。また自ら課題を設け、追究していく学習においては、さらに物事を多面的多角的に捉えていく力の必要性を感じる。	関心・意欲・態度の観点は比較的高く、知識・理解の観点は低くはないが、さらなる定着がほしい。思考・判断・表現や資料活用の技能の観点が低い傾向にあり、必要な情報を正確に取り出す力に課題がある。
第３学年	全体的にノートやプリントを、自分なりにメモを取るなど工夫してよくまとめており、意欲をもって授業に臨んでいる。知識をもとに考える問題などについては、多様な視点で考え・意見が出てくる一方、そういった問題に対して、なかなか考えがまとまらない生徒もおり個人差が大きい。	資料の読み取り等の問題については、何かを読み取ろうとする姿勢が見られるが、自分の考えをまとめて論述する問題となると、前後関係や因果関係をきちんと把握できていない生徒が多いように思われる。語句の暗記ではなく、その事柄の因果関係やその意義などを把握する意識をもたせる必要がある。	関心・意欲・態度は非常に高く、資料活用の技能も高くはないが向上してきている。一方で知識・理解の定着やそれをもとに思考・判断・表現する力は低い傾向にあり、それらを身に付けさせることが課題である。

様式3

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	社会科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	資料活用の技能や知識・理解の観点が低い傾向が見られるので、資料を読み取る力や、活用の能力を高めるとともに、単元のまとめをしっかりと行い、理解させ知識とするものをまとめさせ、定着させる。	授業の中で、地図帳の資料や資料集をなるべく多く使用し、考察させ、資料活用の技能を高めていけるようにする。また、単元ごとにもう一度復習をしっかりと行わせ、知識・理解を高められるように指導していく。	作業的な学習やワークシート、ワークブックを指導しているときに、個別に発展的な指導ができるように学習指導計画を立てる。一定期間ごとに、補充的な学習指導が行えるように計画していく。
第2学年	・「思考・判断・表現」については、個人差も大きく、個々の定着がしづらい。 ・基礎基本の徹底と授業への参加の意識をいかに高められるか。	・個人・少人数・全体など発表の形態をさまざまに組み合わせ、意見の多様性とそこから再構築をする認識を高める。 ・白地図やプリント等を用い、作業的学習を多様する。	・補充的な学習教材を定期的に行わせる。 ・特に作業的学習を行っている時に、机間指導を多くして適宜助言したり、支援したりするのが必要な生徒に対応する。
第3学年	・生徒の知識・理解力に個人差があり、いかにして基礎的・基本的事項の定着を図るかが課題。 ・また「思考・判断・表現」の観点についても低い傾向にあるため、授業のなかに毎回考える場面を設定する。	・平均的な学力以下の生徒に対しては、板書内容を必ず記入することを最低限の課題とする。 ・毎回の授業で考える課題に取り組ませ、それを発表することで自分の視点だけではなく他の人の視点も含めて、「思考・判断・表現」の力を身に付けさせる。	・毎回の授業の始めに前回の内容の復習を行い、知識を定着させる。 ・特に、考える課題の時間に机間指導を行い、進度の速い生徒には自分の考えを説明させるなど考えを深めさせ、遅い生徒には注目すべき点などを整理し、達成できるよう助言を行う。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名	３年　社会　（　明治維新　）

指　導　技　術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	(授業規律)チャイムで確実に着席させ、あいさつを行う (ノート指導)前回のノートやプリントを見て、復習する (板書)本日の目標を板書する (教材提示)図版や資料集・教科書の資料（写真・絵・グラフ・地図等）を見せる	・前回の内容について整理することで、本時の授業へ臨む意欲を高める。			・復習問題で間違えた部分について、ノートで確認をさせる。 ・前回の復習を行うことで本時とのつながりを理解しやすくする。
展開	・本時の授業内容を板書する。 ・板書内容の説明をし、生徒が分からないであろう用語や特に理解させたい部分について、黄色のチョークなど色を変えて補足の説明を行い、生徒にも書き写させる。 ・生徒の考えを書いたり、資料から読み取ったりする課題に取り組ませ、発表させ、クラス全体で吟味する場面を設定する。 (「江戸時代の寺子屋」と「明治の小学校」の授業の様子を比較し、異なっていると思うことを挙げさせる) (発問)なぜそうなるのか、なぜそうなったのかを考えさせる。 （なぜ米ではなく現金で納めさせるようにしたのか) (教材提示)地租改正実施後における「政府の収入と収入に占める地租の割合」のグラフから、政府が安定した財源を得たことを読み取らせる。	・発表した生徒の意見を肯定的に受け止めていくことで、生徒の意欲を高めるとともに、クラスとして意見表明がしやすい雰囲気をつくっていく。	・生徒それぞれの考えや読み取ったことをクラスで発表し合うことで、さまざまな見方、考え方に触れさせる。 ・「なぜ現金納入にしたのか」、「米だとどんなときに困るのか」といった声かけを行い、米納入の不安定さに気付かせる。	・「地租の額は変化しているか」、「地租の割合はどのように変化しているか」といった声掛けを行い、資料の読み取りの技能の向上を図る。 （どんな点に注目して資料を見ていけば良いかをその都度指導していき、技能の向上を図る）	・板書内容を書き写すことで、用語を覚えさせる。 ・板書内容を写した後に、補足説明を書き加えていくことで、事象間の因果関係や歴史の流れを理解させる。 ・補足の部分については、生徒には赤などの色のペンで書かせ、自分が見やすい、理解しやすいノートをつくる工夫をさせる。
まとめ	・明治新政府は「富国強兵」を掲げ、これを達成するために諸改革を行っていくことを確認する。 (発問)学制、徴兵令、地租改正によって、それまでと何がどのように変わったのかを確認する。		・国民の気持ち（立場）を考えさせ、国民にとっては新たな負担でもあったことに気付かせる。		・次回の導入部において、復習の問題に取り組ませることで、知識の定着を図る。

様式２

数学科の学習状況の実態及び内容別・観点別の分析表（中学校）

	学習状況の実態	内容別結果の分析	観点別結果の分析
第１学年	基本的な内容については関心も高く、意欲的に取り組んでいる。しかし、発言は一部の生徒に偏っているのが現状である。 途中式を省略し、スピードを求める傾向があるので、過程を論理的に記述しながら解くことを身に付けさせたい。	正負の数の基本的な計算については一定の成果が得られたと感じるが、複雑な式に対してはまだ課題が残る。今後は問題演習を細かい課題ごとに分け、小テスト形式とし、一人一人の答案を点検する。文字式については、小学校の内容と中学校の内容のつながりを説明することで、理解を図り、さらに興味を引きやすい導入方法を取入れる。	数学は計算だけできればよいと思っている生徒が多くいたが、知識理解は徐々に確実なものへと学習を積み重ねている。数学的な技能を高めるべく反復練習を重ねており、今後は数学的な見方考え方を養う工夫を試みていく。
第２学年	基本的な内容については関心も高く意欲的に取り組んでいる。必要な発言もあり、考察もできる。ただし、さらなる発展学習に対しては一部の生徒になる傾向もある。	正負の数の加減乗除や文字式の計算に一定の成果がみられる。文字をつかった式の扱いが苦手な傾向がある。図形の把握はできているものの他の内容との関連を付けた問題には練習を要する。関数の基本的なところは抑えられていて、これからの学習に期待がもてる。	知識理解は徐々に確実なものへと学習を積み重ねている。数学的な技能を高めるべく反復練習を重ねており、今後は数学的な見方考え方を養う工夫を試みていく。
第３学年	基礎中心の授業を行い、じっくりと重要な部分に時間をかけて説明し、さらに演習に取り組ませることで、基礎・基本の定着を図る。多くの生徒は意欲をもって取り組んでいるが、あまり意欲を示さない生徒も残念ながら一部いる。	基礎的かつ基本的な知識や技能をしっかりと定着させる。 そのために、授業内での演習問題の量を増やしたり、繰り返し練習をさせたりすることでより一層の定着を図る。また家庭学習の充実や習慣化を図り、一人あたりの家庭学習時間を確保する。	授業の中で、じっくりと考えさせる問題、興味深いと思われる問題、複数の解法がある問題など、様々な問題を用意して紹介することで、生徒の関心や興味を高めつつ進めて行くことが肝要だと考える。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	数学

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	基礎中心の授業を行い、単元の基礎概念と知識をしっかり理解させ、その具体的な活用の仕方を習得させる。 身近な生活に密接にかかわるような課題を通して、数学的な見方考え方の向上を目指す。	小学校の内容と中学校の内容のつながりを説明することで、理解を図り、興味を引きやすい導入方法を取り入れる。 知識の整理・活用がしやすい練習問題を作成する。 問題演習は細かい課題ごとに分け、小テスト形式とする。	基礎理解がしっかり出来れば応用もできることを理解させ、補充的な問題を徹底する。自己の到達度に合わせて発展的な問題にも取り組めるように課題を準備していく。
第２学年	基礎基本を中心とした授業を行い、単元の基礎概念と知識をしっかり理解させることに主眼を置いている。 また、その具体的な活用の仕方を習得させることも力を入れている。	興味を引く導入方法を取り入れる。 知識の活用がしやすい練習問題を作成する。(なぞり書き問題) 問題演習は細かい課題ごとに分け、小テスト形式をとって点検し、反復する。	基礎理解がしっかり出来てこそ発展につながることを理解させ、補充的な問題を徹底する。 自己の到達度に合わせて発展的な問題にも取り組めるように課題を準備している。
第３学年	基礎・基本を中心とした授業を心がけ、各単元における重要項目等をより意識しやすいように授業展開を行う。 また、日常生活に隠れた数学を取り入れ、数学の有用性を実感させることにも力を入れている。	教科書の導入だけではなく、生徒の実体験に近い事柄を各単元の導入に多く取り入れることで、興味や関心をもちやすくする。既習の知識を用いることで解ける問題を用意し、数学の体系的な連続性を理解させる。 ポイントごとに小テスト(確認テスト)を行い、理解度を図る。	公式を覚え、それに当てはめるだけで機械的に問題が解けることで満足するのではなく、その公式の本質ともいえる基礎・基本的な知識や技能に目を向けさせるようにする。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名	３年　数学（標本調査）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	・前回の授業で学習した言葉の復習をする。 ・今日の授業で行うことを明確に示す。 ・絵をかき、図と言葉の両方で説明する。 ・計算の仕方の復習をする。	・図と、文字の両方を使い説明、復習することで関心をもたせる。			・計算の復習をさせることで、理解を深めさせる。
展開	・これから行う作業について、明確に指示する。 ・班ごとになっても、暇を持て余す生徒がいないように指導する。 ・プリントに、作業結果を記入させていく。 ・計算機を活用させる。	・班活動を通して、興味をもたせる。	・自分一人で解決するのではなく、班員と協力して作業の意義を感じさせる。	・実際に作業することで、これからも利用できるようにする。	・班員と教え合いながら理解を深める。
まとめ	・作業して、得られた結果をワークシートに書き込ませる。 ・班長が代表して、班の結果を発表する。 ・次回の学習内容を確認する。		・作業の大変さを感じて、標本調査の必要性を考える。		・他の班と比べて、自分の班がどうであったのかということから、標本調査の意義を理解する。

様式２

理科の学習状況の実態及び内容別・観点別の分析表（中学校）

	学習状況の実態	学校の結果の分析	内容別・観点別 結果の分析
第１学年	中学校に入り、小学校より宿題が減ったことで、家庭学習の習慣が減ったようである。最初の定期テストを経て、勉強の習慣化の大切さを学んだことで、少しずつ勉強を定期的に行なえる生徒も増えつつある。授業だけでの学習ではなく、授業を踏まえた予習・復習の習慣を身に付けさせることが今後の課題となる。	定期テストの結果より、まず、勉強の習慣をもっている生徒とそうでない生徒の違いが伺える。中学最初のテストとしては、何を勉強すればよいかを示唆した上で行っているが、それを勉強しているか否かで点数に差が出た。ただノートを写すだけではなく、教員が示していることを理解し、何を家庭で勉強したらよいかを理解する必要がある。	観点別にみると、板書を写すという能力が乏しい。教師が板書した内容を45分間集中して写すということが難しいようである。しかし、実験技能は低くないので、今後は仮説・考察技能を高めていくことが必要である。
第２学年	部活なども中心となってきたことで、部活と学習との両立の難しさから、学習の習慣が乱れている生徒もいるようである。一年後の受験を意識させつつ、学習の習慣を身に付けさせることが課題である。	全国、区の学力調査を踏まえて、練馬区は理科の正答率が低いが、本校においても高い数値とはなっていない。基礎的な分野において、定着がなされていないため、応用へとつなぐことまでに至っていない。基礎の定着を図った指導が重要である。	化学、生物分野は得意とする生徒が多いようである。しかし、計算・気象分野などになると応用的な学習内容へは進みづらい状況にあるので、分野ごとにも基礎を重んじた指導を行う必要がある。
第３学年	受験を意識し、学習の習慣を心がけている生徒が増えている。苦手な単元を克服しようと努力をし、教員への質問などにも積極性を感じる。学習に時間をかける生徒は増えているので、何を勉強したらよいかという、ポイントを押さえた学習方法の指導が今後の課題となってくる。	全国、区の学力調査を踏まえて、練馬区は理科の正答率が低いが、本校においても高い数値とはなっていない。実験技能などは必ずしも低くはないが、計算や応用になってしまうと苦手意識をもつ生徒が多いようである。今後の指導計画は重要である。	生物分野などは得意とする生徒が多いが、計算や原子記号、天体の分野になると苦手とする生徒が多い。天体に関しては映像を用いイメージをもたせるなど、授業の工夫が重要である。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	理科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	・実験についてはものの扱い方など注意して指導する必要がある。 ・指導内容について実験を通して計画的に行うことができた。 ・科学的な思考を養う指導が不十分だった。	・実験に際して進度を確認しながら指示を出すようにする。 ・実験などでは特に仮説・考察などレポート指導にも力を入れる。 ・新しい教科書をしっかりと活用しながら授業を進めていく。	・資料集や標本などを積極的に活用し視覚的な面からの理解を助け、また、実際に絵を描かせてイメージの定着を図る。
第２学年	・日常的な生活体験の中で認識できない事物についての生徒の体感的な理解が不十分になっている傾向がある。 ・実験観察や実験に対する興味関心は高いが、その結果をまとめたり考察したりするのが苦手とする傾向がある。	・なるべく体感的な観察実験を行い、生徒が事象を体感することによって理解を深めるようにする。 ・観察実験や演習等で班単位で互いに協力してまとめや考察をする学習を設け、生徒相互の理解を深めるようにする。	・長期休業中や放課後等を利用して行う。
第３学年	・言語による課題の把握や実験から得た数値の扱い方が不十分な生徒が多い。 ・観察・実験の結果からの考察や次の課題を提起する応用力が不十分な傾向がある。	・観察・実験等でプリントを教科書と共に利用し、班で実験方法や課題を文字情報から読み取り学習できるように指導する。また実験結果からの考察も班単位で生徒自ら記述できるように促す指導をする。	・宿題を併用しつつ、授業の定着を図る。 ・テスト前など、質問教室を開き、理解を助けていく。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名	１年　理科　…　レンズのはたらき （単元３　身のまわりの現象「新しい科学　１年（東京書籍）」）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	・凸レンズが特殊な形のガラスであることをプリズムを見ることで理解をし、レンズの屈折の仕方について、前時に学んだ屈折の知識をもとに考える。 ・光学台の使い方について説明をし、ろうそくを使う点での火傷の注意などを行う。	実際の実験の器具を見せながら説明することで、生徒にイメージをもたせ、意欲向上につなげる。	レンズとプリズムという一見には異なる二つのものを用いることで考え方の基本を養う。	プリントに記入させることで、実験手順のポイントを把握する。	プリントに記入させることで、実験手順のポイントを把握する。
展開	・光学台を用いて、スクリーンに写る像についてスケッチをさせながら、観察をさせる。 ・実像の写り方について、ろうそくの上下が逆さまになっていることに着目させながら、屈折について理解させる。 ・虚像の観察の仕方について、日常生活でレンズをどう使うかに注目させ、観察させる。	自分たちで実験をさせることで、関心意欲の向上を図る。 また、虚像の観察の仕方と日常生活を対比して考えることで、好奇心を引き出す。	虚像の観察の仕方を考えることで、科学的思考を養う。	適宜助言を与え、実験技術の向上を図る。 また、プリントまとめをスケッチと文字を併用することで、レポート作成の力を養う。	実際に実験をすることで、知識の定着を図る。また、日常生活とからめることで、「教わったこと」ではなく「すでに体験したこと」として定着させる。
まとめ	・スクリーンに写る像の大きさ、向き、焦点との距離などをプリントにまとめさせる。 ・レンズを通った光がどのように屈折して進むのかを考察し、レポートにまとめを書かせる。	授業の最後に実験の目的を考えることで、生徒の実験活動に達成感をもたせる。	実験したことの結果を項目ごとにまとめさせることで、漠然としたものを段階的にとらえることが出来る。	実験をまとめる際に文章だけを使うのではなく、一度箇条書きで書くことで、まとめる力を養う。	結果をプリントにまとめ、レポートを書かせることで、体験的活動を知識としてまとめる。

様式２

外国語（英語）の学習状況の実態および内容別・観点別の分析表（中学校）

	学習状況の実態	学校の結果の分析	内容別・観点別 結果の分析
第１学年	小学校外国語活動により、日常使う基本的な英語の知識があり、聞き取る力も向上している。しかし、すでに学力差が大きく、英語の好き嫌いも明白である。基本的に、教科書の音読、口頭でのドリルワーク、インタビュー活動は、一年生らしく元気よく取り組む。 一方で文字と音が一致せず、特に書くことには意欲的に取り組めない生徒が複数いる。	Warm-upの単元は小学校外国語活動で音声を通して学習している内容なので、授業の進行もスムーズで理解度も高い。しかし週、月、序数、大きい数、ローマ字ヘボン式などは習得が不十分で曖昧な部分を残している生徒が複数いるので、繰り返し取り上げていく必要がある。Unit１以降は、中学生らしい英語の勉強法を獲得していきながら4技能の向上を目指していく必要がある。英語学習のすべての基本であることを意識する。	１年生で扱う内容は理解しやすいので「聞くこと」「読むこと」を通して全体的に課題を達成できている。言語文化の観点では個人差があり、満遍なく語彙力、文法力を培っていく必要がある。 表現の能力は「話すこと」「書くこと」につながる基礎的能力をまずは養う指導を工夫し努力する。
第２学年	英語学習に対する関心意欲が高まってきており、進んで言語活動に取り組んでいる。しかし教科書の音読や口頭でのpattern practiceなど自ら英語を発する場面で消極的になる傾向がある。また文法や本文読解において学力差が出てきており、英語に対する得意不得意がはっきりしてきている。	１学年の内容をしっかりと理解している生徒が多く、「読む・聞く」能力は向上している。しかし新出の文法事項の理解が曖昧である生徒も多くいるため、読解力を確実に身に付けるためにも指導を工夫し徹底させる必要がある。また「書く」能力はまだまだ不十分であるため、機会を設け能力向上のための指導をする。	「読む・聞く」能力は向上しているが、自分の意見や考えを英語で表現し、それを相手に伝えようとする態度が身に付いていない。そのため単語や文法の基礎・基本を定着させ、「書く・話す」活動を多く取り入れた指導を行う。
第３学年	学習に対する意欲が向上してきている。特に、授業の復習や語彙の練習に積極的に取り組む生徒が増えてきている。しかし、言語活動に対し、消極的な態度が見られることもある。「人の目を見てはっきりと話す」を含め、基本的なコミュニケーション能力を高めていく必要がある。	「読む」、「聞く」といったインプットの能力は向上している。しかし、「書く」「話す」といったアウトプットの能力に課題が残る。基本的な知識の理解、定着に努め、アウトプットの機会を増やし、能力の向上を図る。	時制では、現在・過去・未来の区別がついてきた。しかし、現在完了の理解に困難を示す生徒が多い。また、助動詞や接続詞、比較なども同様である。言語活動等で繰り返し言語材料を使用する機会を設け、理解を促していく。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	英　　語

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	新出語を定着させ、読み書きできるようにする。新出文法事項を理解し、基本文の定着と読み書きができるようにする。教科書本文の聞き取りと音読による読み取りを繰り返し、理解力を高める。基本表現の定着と使用場面の理解を徹底し、コミュニケーション活動につなげる。	毎時FCで発音練習・意味確認を行う。定期的に単語テストを行う。PCで繰り返し口頭練習。ワークシートを作成しドリル練習。バーコードリピーター等で繰り返し音読練習。ディクテーションを行い英文の確認。ペア練習・グループ活動を通して英語を使い、コミュニケーション活動を意識させる。	英語の授業環境づくりを目的に「英語の歌」を授業はじめに導入。副教材を利用し、文型練習を繰り返し行う。 ALTとの「会話のテスト」を定期的に行う。長期休みの期間を利用して必要生徒に補充教室を実施。自己紹介等の英作文課題を与え、文化発表会で展示する。
第２学年	教科書の音読やグループワークなど自ら英語を発する場面で消極的になり、正しく英語を発音できない生徒が多い。授業内で生徒が英語で発言する機会を増やし、単語や文法の理解、さらには読解力の向上につなげる。また家庭での英語学習を定着させるため、復習すべきポイントをはっきりと示し学校での授業につなげていく。	授業内では音読活動を重視し、いくつかのパターンで何度も繰り返し音読させる。さらにグループワークなどを取り入れ生徒にコミュニケーションを意識させる。また本文読解では内容に関する質問を先に生徒に提示し、自ら大事なポイントを読み取る姿勢を身に付けさせる。各単元の最後には復習プリントを活用し、家庭学習につなげる。	授業の冒頭に洋楽を歌う活動を取り入れ、ネイティブの英語を聞き取り発音する練習をしている。 スペリングコンテストを実施し、語彙力の向上・定着を図っている。 夏休み期間中に補充教室を実施し、1学年の内容を重点的に復習する。
第３学年	新出の言語材料の理解、単語習得に課題がある。多くの文法事項、単語を学び、知識を整理できていないことが原因と考える。積極的に授業を受けようとする姿勢が見られる学年であるので、授業を通して英語を活用する機会を増やすことや、復習の仕方を明確に示し、家庭学習を充実させることで生徒の知識理解を深めていく。	言語の使用場面や言語の働きを取り上げ、様々な言語活動を行い、繰り返し言語材料を使用することで知識の理解・定着を図る。具体的には、毎時FCで発音練習・意味確認を行う。単元ごとに単語テストを行う。PCで繰り返し口頭練習。バーコードリピーター等で繰り返し音読練習。ペア練習・グループ活動・タスク活動を通して英語を使い、コミュニケーション活動を充実させる。	英語の授業環境づくりを目的に「1分間チャット」を授業はじめに導入する。 長期休みの期間を利用して必要生徒に補充教室を実施する。 発展的な学習教室では、希望生徒対象に1・2年の復習を行った。また、スペリングコンテストや小テストを行うなど、語彙力の増加にも力を入れる。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

英語科

指　導　技　術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○コミュニケーションへの関心意欲態度を向上させるための手だて	○表現の能力を向上させるための手だて	○理解の向上をさせるための手だて	○言語や文化についての知識理解を向上させるための手だて
導入	・チャイム着席を徹底し、授業の忘れ物については、授業の最初に申し出るよう指導する。 ・Warm-upとして、Small-Talkや歌などを行い、生徒が自主的に楽しい雰囲気で授業を行えるようにする。 ・前時に学習した内容を、復習する。 （新出語の確認、教科書音読、Q&A、ドリル練習など）	・身近な話題、生徒の好きな要素を取り込みながら、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。	・間違いや失敗を気にせず発言するよう促し、習った英語を使って身近なことを発表させるなど。	・教科書内容に準拠したPicture Cards等を使い、内容について質疑応答など。	・重要構文、文法事項をPicture Cards等を使って繰り返し口頭練習をしたり、応用文を作成させたりするなど。
展開	・〔Introduction〕　新しく学習する内容について、Picture Cards　等を使って、英語で口頭説明をする。 ・〔Listening〕初回は本文内容について聞き取りポイントを提示し、聞き取らせる。本文読解後は、一語一語ていねいに聞き取るよう指導する。 ・〔New Words〕フラッシュカードを利用し、発音・意味を繰り返し練習する。辞書の使用も勧める ・〔Grammar〕重要構文・重要ポイントを日本語できちんと説明する。その後、口頭でのドリル練習で反復練習をしたり、ワークシートや副教材の練習問題を解いたりして理解を深める。 ・〔Reading〕音読練習を繰り返し行う。感情を込めることで、本文内容の理解度が高まる。 Tor F やQ&Aを実施する。 ・〔Speaking〕習った英語を使って、会話活動・アクティビティーなどcommunication活動を行う。 ・〔Writing〕習った英語を使って身近な事を書いて表現する。	・生徒が主体的に発問したり答えたりできるよう、発問内容・練習内容・活動内容を綿密に計画し工夫する。 ・基本的な英語力を身に付けなければコミュニケーションは成立しない。そのため、復習を中心とした家庭学習の定着の必要性を訴えていくとともに課題の与え方を工夫する。	・重要構文・重要ポイントの口頭によるドリル練習を行い暗記、定着させる。その後応用場面を設定し、自由に表現させるなど。 ・習った内容で英作文の練習を繰り返し行うことで、英文の書き方を理解し、生徒が自分の書きたい文章を表現できるようにする。	・生徒が苦手とする箇所を予測・把握し、理解を促す発問や説明を工夫する。 ・教科書本文の音読練習を暗記するくらい行うことで、実際の会話や場面を想像したり再現できるようにさせる。また音読後はListening力も大幅に向上するので理解力も一層高めていくことができる。	・新出語、新出文法事項の小テストやスペリングコンテストを実施するなど。 ・口頭、紙面でのドリル練習を繰り返し行い、重要ポイントを定着させる。 ・教科書本文をディクテーションさせるなど、英文の細かい点にも配慮させる。
まとめ	・本時に学習した内容を、ポイントを絞って振り返る。 ・板書の指導。 ・宿題の提示。 ・次回の予告。	・　生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように、的確な指示をする。	・授業内ではゆっくり書く時間を取れないため、家庭で補っていけるように指導する。	・本日の学習内容とポイントが何だったのか、生徒たち自身の発言で確認できるようにする。	・様々な発問、練習問題をこなすことにより、生徒が知識・理解を深められるようにする。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	音楽科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	○　基礎・基本の定着	楽譜にふれる機会を普段の授業から少しずつ増やし、急に多くの課題を詰め込むことのないように十分考慮する。	小テスト・実技テストなどを実施する。達成度の低い生徒には個別の課題を用意、一緒に練習するなどして支援する。
		発声は、自分の今の声の状態をよく考えさせることを重点とする。特に自校の上級生の歌声を聞かせて、歌う意欲を増進させる。	互いの演奏を鑑賞し、聴き合う中で、他人の長所を認め、自分の演奏活動に役立てていける雰囲気作りを支援する。
第２学年	基礎・基本の定着	楽曲の仕上げに向けて、曲にふさわしい発声や表現ができるよう、その場で必要な事項を指導する。	必要に応じて、個別に学習できる機会を設け、指導・助言する。
	○　より意欲的な態度の育成	パート練習などの学習形態を工夫し、受動的ではなく、自発的に学習できるよう、評価や助言を的確に行うよう考慮する。	互いの演奏を鑑賞し、聴き合う中で、他人の長所を認め、自分の演奏活動に役立てていける雰囲気作りを支援する。
	○　歌唱技術の向上	よりよい発声を目指し、パート練習の中での発声練習の仕方を指導する。	
第３学年	○　基礎・基本の定着	楽曲のより高い完成度を目指し、曲にふさわしい発声や表現ができるよう、その場で必要な事項を指導する。	必要に応じて、パート別または個別に学習できる機会を設け、指導・助言する。
	○　歌唱技術の向上	パート練習だけではなく、全体の練習でも、積極的に発声練習を行い、まとまりのあるよりよい発声を意識させる。	互いの演奏を鑑賞し聴き合う中で、他人の長所を認め、自分の演奏活動に役立てていける雰囲気作りを支援する。
		発表演奏することの大切さや素晴らしさについて指導する。また下級生への指導や助言の機会も積極的に取り入れる。	

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名 音楽科	２学年　翼をください（合唱）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	・腹式呼吸法や発声練習を行う。 ・授業前にパートリーダーが自己評価表を配布し、自分のパートに目標を書かせる。 ・既習曲または、音取りが終わったところまでを確認しながら歌い声出しをする。	・授業の流れや目標、達成の目安を最初に必ず提示する。 ・生徒自身が自ら目標を立てられるように支援する。	・曲想に合った発声を考えさせる。	・発達段階に応じた腹式呼吸や発声練習のやり方を指導する。	・リーダーの指示をきちんと聞くように指導する。 ・自分と他人の声どちらもよく観察するように指導する。
展開	・パート練習を行う際は自己評価をさせ、学習活動の様子を自ら振り返り、次に生かすことができるように指導する。 ・パート練習では、全体の練習では取り入れなかったタイプの発声練習や、それぞれのパートに必要な練習を生徒に考えさせながら取り入れ、意欲的な態度の育成と、技術の向上を図る。	・受動的な練習ばかりではなく、どうやったらうまくいくのかを自主的に考えられる集団の力を育成するように指導する。	・生徒の情緒性を大切にし、助言が教師からの主観的な感想や意見にならないように留意する。 ・練習しながら、各パートの役割を考え、それらを生かした歌い方を考えさせる。	・話し合ったり、自分で考えたりしたことをもとに、パートの役割を生かして練習させる。	・各パートがどのような役割を担っているのかを意識しながら、模範演奏を聴くように指導する。
まとめ	・練習の成果の確認（合唱） ・自己評価カードの記入 ・プリントや黒板を使用し、基礎・基本の確認になる事項や、楽典や楽曲の理解に結び付けることができる事項を確認する。 ・次回の活動の確認・予告をする。	・自己評価カードを使用し、必ず振り返りをさせ、次の時間の課題を見付けるように指導する。 ・板書は大きな字で、簡潔に書く	・リズム、旋律、構成の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、パートの役割と全体の響きとの関わりが理解できるように、プリントを使って指導する。	・パートの役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように助言する。	・曲全体の構成や響きを考え、よりよい合唱になるためには、何が必要かを考えさせる。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名 音楽科	２学年　翼をください（合唱）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	・腹式呼吸法や発声練習を行う。 ・授業前にパートリーダーが自己評価表を配布し、自分のパートに目標を書かせる。 ・既習曲または、音取りが終わったところまでを確認しながら歌い声出しをする。	・授業の流れや目標、達成の目安を最初に必ず提示する。 ・生徒自身が自ら目標を立てられるように支援する。	・曲想に合った発声を考えさせる。	・発達段階に応じた腹式呼吸や発声練習のやり方を指導する。	・リーダーの指示をきちんと聞くように指導する。 ・自分と他人の声どちらもよく観察するように指導する。
展開	・パート練習を行う際は自己評価をさせ、学習活動の様子を自ら振り返り、次に生かすことができるように指導する。 ・パート練習では、全体の練習では取り入れなかったタイプの発声練習や、それぞれのパートに必要な練習を生徒に考えさせながら取り入れ、意欲的な態度の育成と、技術の向上を図る。	・受動的な練習ばかりではなく、どうやったらうまくいくのかを自主的に考えられる集団の力を育成するように指導する。	・生徒の情緒性を大切にし、助言が教師からの主観的な感想や意見にならないように留意する。 ・練習しながら、各パートの役割を考え、それらを生かした歌い方を考えさせる。	・話し合ったり、自分で考えたりしたことをもとに、パートの役割を生かして練習させる。	・各パートがどのような役割を担っているのかを意識しながら、模範演奏を聴くように指導する。
まとめ	・練習の成果の確認（合唱） ・自己評価カードの記入 ・プリントや黒板を使用し、基礎・基本の確認になる事項や、楽典や楽曲の理解に結び付けることができる事項を確認する。 ・次回の活動の確認・予告をする。	・自己評価カードを使用し、必ず振り返りをさせ、次の時間の課題を見付けるように指導する。 ・板書は大きな字で、簡潔に書く	・リズム、旋律、構成の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、パートの役割と全体の響きとの関わりが理解できるように、プリントを使って指導する。	・パートの役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように助言する。	・曲全体の構成や響きを考え、よりよい合唱になるためには、何が必要かを考えさせる。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	美　　術

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	○関心・意欲・態度はおおむね取り組めているが、発想や独創的技能面においては、個々の生徒が持っている能力がまだまだ充分に開発されていない現状である。	○教師の教材開発や授業の導入時の発想や構想の段階で、適宜適切な個々へのアドバイスが必要である。 ○参考作品や図鑑、資料集などを提示して、感性や想像力を高めさせる。 ○作業の節目に自己評価カードを記入確認させ、各自の進度目標や取り組みの状況を客観的に把握させる。	○自分が表現したい物や空間をきちんと描けるように基礎的なデッサン力をつける。そのために年間を通して継続的に鉛筆デッサンの指導をする。 ○「美術作品などのよさや美しさを感じ取り、味わう活動」を通した鑑賞の能力の育成するために、作品を鑑賞しながら思いや考えを説明し合わせる。
第２学年	○関心・意欲・態度は全体に、大変意欲的に取り組んでいる。しかし発想や構想の段階になると、一部の生徒に作業がなかなか前に進まず、進度が大きく開いてしまう現状である。	○発想や構想、独創的な技能も含めて、教師がきめ細かく個々の能力にあった指導助言を工夫し、毎回の授業で実践していく。 ○参考作品や資料集、芸術作品の映像などを鑑賞し、感性や想像力をいっそう高め、独創的・総合的な見方や考え方を培わせる。	○実写力を高めるために、鉛筆デッサンは年間を通して継続的に指導する。 ○なるべく美術館や博物館に出向いて、本物の芸術作品を鑑賞する機会を設ける。 ○鑑賞の能力を育成するために、それぞれの作品を通して自分の価値意識をもって批評し合わせる。
第３学年	○関心・意欲・態度に関しては、ほとんどの生徒が自主的、意欲的に美術の活動に参加している。しかし一部作業の進度が遅れてしまう生徒が見られる。 ○1，2年のころに比べて感性や想像力が成長しているようであるが、まだまだ自分の創意工夫力を出し切れていない生徒も見受けられる。	○発想や創造的な能力を高めるために導入部分でさまざまな資料や写真、図録などを提示したり、映像や音楽を鑑賞させるなど指導方法を工夫する。 ○個々の個性を尊重して丁寧な指導助言を心がける。 ○自己評価カードを授業の節目で記入させ、明確な進度目標を段階ごとに設定し、作業が遅れないように自分で確認させるとともに完成までの計画を立てさせる。	○実写力・素描力を高めるため、1，2年から継続して指導している鉛筆デッサンの指導をする。 ○修学旅行の体験を通して、日本の伝統芸術、文化遺産、世界遺産に関して、理解や見方を深めさせ、興味・関心を高める。 ○鑑賞の能力をより充実、発展させるために、自分の考えや感情を言葉や文章で表し、他者と意見を交換し、自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるようにさせる。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

美術科	２年　デザイン（絵文字アート）

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	・（授業規律）始業チャイムには美術室移動、号令がかけられるように指導し、教室移動を早めにすることによって、学習規律を確立する。 ・（指導等）本時の単元名とねらい、課題を把握、明確にできるよう黒板に板書またはプリント等を配布し、作品制作のための課題をつかませる。 ・（教材提示）教科書・資料集の作品、参考作品を見て主題の読み取りをさせる。課題を把握させ、主題へ迫る。作品によって掲示方法はいろいろで、持って提示したり、パネルに掲示や黒板前に配置、また作品によっては机間指導などをする。生徒の気持ちを引きつけるような効果的な教材選びを心がける。	・課題が資料集にある場合は導入にそのページの作品例や内容をみることから導入する。（時間は短時間でみる） ・作品の用意がある場合は、鑑賞により、課題を把握し、表現したいものを明確にできるようにする。 ・鑑賞の視覚教材の工夫。 ・鑑賞作品や、資料集による作品に対しての感想や質問を聞く。興味・関心等の様子を観察、作品制作に向けて参考とする。	・身近なところにある新聞紙や雑誌、様々な資料を、作品の構想に結び付けて考えられる、応用、利用できる資料を提示できるように工夫する。 ・参考作品を導入部分で提示し、創作意欲を引き出させる。	・どのような表現をしたいのか表現したい場面を明確に文章で表す、スケッチすることなどを指導する。 ・クロッキー帳や下絵の紙にアイデアスケッチを数多く描くことを指導する。	・覚えなければならないデザイン用語や美術的な用語、作業手順、色彩学等、理論は、プリントを作成し。配布、ファイルさせ、知識、理解の定着を図る。
展開	・（ノート指導）ノートはクロッキー帳もしくは下絵用紙。主題、テーマを各自のイメージを具体的な形・画面として捉え構想をまとめるように指導する。自分らしさを表現するよう指導をする。より明確にするため文章により構想をまとめる等させる。 ・（教材提示）資料集や、参考作品の鑑賞、経験から、いろいろな表現技法、制作用具の基本的な知識と使用方法を知る。 ・（板書）板書、プリント等で制作手順を知らせ確認させる。制作の完成へ計画予定、見通しを明示。 ・（ノート指導）画面構成やアイデアの下絵を表現、制作させる。また、作品鑑賞の感想や感動を文章にまとめさせる。 ・（個別指導）一人一人の作業の状況を確認、 ・（授業規律・安全指導）ルールを守る。正しい用具の扱い、用具の数の確認、安全に作業させる。	・生徒の作品への取り組み方向や、考え、アイデアの良さを教師が認め、個性の表現を発表しやすくする。 ・机間指導では、アドバイス、良いところを言葉がけしたりし個々の意欲を引き出す。 ・作品に必要な資料を集め活用する等、自分の考えで取り組み、主体的に制作する意欲をもたせるようにする。 ・授業に必要な用具等の準備を明確にし、作業に支障のないよう取り組ませる。	・教科書や資料集の作品や教師の準備した参考作品等の鑑賞による自分の制作に関してのイメージを高めさせる。 ・必要に応じて参考資料集める等の作品のため準備を工夫させる。 ・下絵用紙にアイデアスケッチをたくさん描かせる。	・生徒が自分で工夫した所に注目させ、問題の焦点化を図り、効果を確かめながら美的にまとめさせていく。 ・表現技法の基礎的の練習をしっかり踏ませ表現させる。 ・刃物や薬品を正しく扱っている生徒を評価し、全体にその技能を広げていく。 ・手順を認識し、計画的に完成させるように促す。 ・制作に必要な用具等の忘れ物をしないよう、常に心掛けさせる。	・教科書、資料集、友達の作品等を大切に鑑賞することから、課題の探求につながることで指導にあたる。 ・美術館に行くなど、さらに新しい学習へと発展することを働きかけるように助言する。
まとめ	・（ノート指導）完成した今の気持ちをまとめ、自己評価をし、記入して提出する。友達の作品を鑑賞し合い、その作品の良さや美しさ作者の考えや工夫などを感じとらせ文章にまとめさせる。 ・（板書）板書、プリント等でこれまでの制作についてまとめる。 ・（授業構成）最後に今回の課題が解決されたのか確認する。作品提出。 ・(鑑賞)作品展等を校内提示や掲示し、お互いに作品の良さを認め合いながら鑑賞する。 ・作品を造形的な視点から捉えさせるために言葉で発表させ、他者と意見を交換することにより、自分では気付かなかった美しさや価値などを考えさせ、味わわせる。	・まとめの段階では、表現の良さや工夫がある良いところや、問題点のあるところに気付くような言葉がけを行う。完成させ、提出期限が守れるよう意欲をもたせるように言葉をかける。 ・用具忘れをしないよう連絡指導する。	・表現を構想できない生徒には自分のテーマの決定による作品のための資料を集めさせ、アイデアスケッチを数多くさせる。 ・構想を練るにはアイデアスケッチするなどの他、文章で表すなど工夫させる。	・手順を認識し、計画的に、制作をしていた生徒を褒め、その良さを確認する。 ・まとめの段階のノート、アイデアスケッチの段階での指導では何をどのように表現すればいいのか、繰り返し指導していく。	・自分と友達の表現の共通点や相違点を鑑賞し文章にまとめ、言葉で互いに発表し合うことによって、それらを今後の自分の表現活動に生かす。 ・海外の作品では、異文化を知り、人々の願いの共通性や違いを知り、国際理解につなげられるように働きかける。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	保健体育科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第１学年	・小学校で学習した内容を有効に活用し、単元ごとに授業を発展的な取り組みにできるような展開にする。 ・体育が得意な生徒と苦手な生徒では基礎体力、基本動作の定着に大きな差があるので、最低限身に付けさせたい基礎体力を補強運動で定着させる必要がある。	・小学校で学んできた内容を把握した上で、すでに身に付けた技能を理論立てて説明し、技能の向上につなげる。 ・生徒の発達状況に応じた補強運動の種類や、回数の設定をし、毎時間取り組ませることで定着を図る。	・個々の能力に応じた課題を設定させ、それぞれが達成できるような助言を行う。 ・個々の発達状況を考え、取り組み方や、回数に幅をもたせながら、1年間の中での体力向上につなげる。
第２学年	・理論的に運動に取り組む習慣と、すでに身に付けた能力を活用して、さらに発展的な能力向上に向けた取り組み方ができるような授業展開にする。 ・身体の発達状況から体力向上が著しい時期なので、運動量の確保をする。	・視聴覚教材の活用や、学習カードの有効な活用をするとともに、グループ学習で見せ合い教え合う場面を多く設定する。 ・授業の進め方を、毎時間繰り返し行える内容にして説明の時間を短縮し、運動時間を確保する。	・体育理論の授業や、教科書を活用して運動の仕組みを教える。 ・補強運動などは、生徒の発達状況に合わせて負荷や回数を増やして体力の向上を目指す。
第３学年	・基礎体力の定着や、運動技能の向上は図れているので、その能力を活用して競争を楽しむことや、作戦を立てて勝敗を競う楽しさを味わえる授業展開にする。 ・自分の考えや、課題解決するための手段を、言語化して説明したり、記述して説明したりする力が身に付いていない。	・競争型の授業では、能力が近い生徒と競い合う場面を設定したり、グループ学習の中で作戦を立てたグループごとの練習や、試合毎に作戦を意識させる場面を設けたりする。 ・学習カードの記述内容の工夫や、授業内での質問、発表、教え合い学習の場面を多く設定する。	・個々の能力に応じた課題が達成できていない場合に、個別の助言をすることで意欲向上につなげる。グループでの作戦を立てる際のポイントの助言や、作戦のチェックを学習カードなどから行う。 ・授業内での発言の場面を多くして、互いに確認できるようにする。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

保健体育科	２年　　（　球技　）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	〖授業規律〗 ・始業時間を常に意識させるとともに、服装のチェックをし、安全に授業に取り組めるようにさせる。また、けがの防止のために、準備体操をしっかり取り組ませる。 〖指導技術〗 ・基礎体力の定着を図れる補強運動を実施する。 ・本時の内容を説明し、その時間に意識するポイントを確認させる。	・互いに声を出し合うことで意欲的に取り組む姿勢をつくる。 ・学習カード、視聴覚教材を活用し、本時のめあてと個人の課題を明確にさせる。	・学習カード等を活用し、自己の課題設定と課題解決に向けた工夫を考えさせる。	・補強運動の負荷や種類を、単元ごと、発達状況に応じた回数にすることで、基礎体力、基礎技能の定着と向上につなげる。	・前回までの授業内容の復習や、ポイントの確認をすることで知識の定着を図る。 ・学習カードを活用する。
展開	〖授業規律〗 ・基礎技能を定着させる練習は同じメニューにすることで、運動量の確保をする。 ・グループ活動や、教え合いの時間を充分にとり、お互いに協力し、意欲的に取り組めるようにする。 〖指導技術〗 ・グループ活動を取り入れ、グループ内での役割を決め、しっかり自分の役割を果たす責任感を身に付けさせる。 ・仲間同士で教え合う時間や、チームの課題を解決するために考える時間を確保し、生徒自身が課題の設定や、解決の方法を見いだせるようにする。 〖個別指導〗 ・生徒の能力に応じて、個々の達成できそうな課題を設定し、達成するための助言をする。	・基礎技能を意欲的に取り組めるように、目標数値を決めて取り組ませる。 ・グループで達成できるような課題を提示して、仲間と協力して取り組めるようにする。 ・基礎技能を使って、ゲームを楽しめるように、簡易ルールで行えるゲーム形式を取り入れる。	・学習カードの活用や、教科書、視聴覚教材を活用して、運動の仕組みを理論的にとらえられるようにする。 ・チームで作戦を立てて試合に取り組ませ、試合の振り返りを学習カードなどでまとめさせる。	・基礎技能は、毎時間繰り返し行うことで、技能の定着と、さらに正確に行える力を養う。 ・個々に合った技能の達成目標を設定させ、取り組ませる。 ・グループ内で、手本となれる生徒を中心に、生徒同士が教え合いをして、課題の解決につなげる。	・視聴覚教材の活用、学習カードや板書の活用で、知識理解の定着を図る。 ・必ず覚えさせたいキーワードや、技能のコツは、毎時間繰り返し指導の中で伝えていく。
まとめ	〖発問・ノート指導〗 ・本時の課題が解決されたかを確認し、次の授業につながるように発表させたり、学習カードにまとめさせたりする。 〖授業規律〗 ・効率よく片付けや、整理体操を行わせる。	・本時の課題が達成できた部分について、生徒に伝えることで、より意欲をもち取り組めるようにする。	・学習カードを有効に活用することで、本時の振り返りと、次回の課題設定につなげる。	・本時の課題で達成できたことや、次の課題に必要なポイントを助言する。	・本時のポイントを、再度確認し、知識理解の定着を図る。また、生徒に考えさせ、発表させることで知識を定着させる。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	技術

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第１学年	中学生になったばかりで、危機管理の意識も低い１年生には、作業中の注意点など、工具を使用する際の安全指導を徹底させる必要がある。	怪我に繋がりうる、間違った工具の使用や危険な行為など、生徒同士でも注意し合えるように、作業前に確認をし、全体の意識が上げるよう指導する。	机間指導を充実させ、全体指導後の個別指導で危険回避と安全指導を行い、作業や理解の早い生徒には周りのお手本にしたり先の内容を解説しておいたりする。
第２学年	技術に興味をもてず、無作業になってしまう生徒への指導の工夫が必要である。	最新技術や身近な技術など、より多くの知識を取り入れ、興味関心をいだかせる資料として活用していく。	課題にするプリントの回答率や提出の有無で判断し、授業に取り組めていない生徒は重点的に個別指導を展開する。
第３学年	作業時の個別指導中、ほかの生徒がお喋りをしたり遊んだりと、集中力に欠ける雰囲気になっていることがあり、指導の工夫が必要である。	授業内のメリハリがつくよう、最低限守るべき注意事項を説明して意識させ、作業の際はきちんと集中させる。個別指導中も全体に目を配る。	集中力に欠ける場合、最終的に作品の仕上がりが遅れることを認識させ、進度の遅い生徒は放課後に補習を行う。進度の早い生徒には作業の選択肢を増やして創意工夫を引き出す。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名	１年　技術　（　材料の特徴と加工方法　）

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	（授業規律）挨拶をきちんとさせ、出席確認をする。 （板書）本時の目標と学習内容を板書し、はっきりと意識させる。 （発問）前時の学習内容の確認をしっかりし、本時の学習内容について、わかりやすく説明する。	興味・関心がもてるように、教科書・資料集・参考作品等を提示する。	ヒントになるような具体例や実物、アイディアをなるべく多く提示する。	本時の製作で注意する点については、大きく板書する。	作業を突き詰めると、どんな最先端技術に近づくか等を説明し、興味をもたせる。
展開	（授業規律）準備、全体への指導、個別指導、片付け、本時のまとめ、という作品製作時の授業の流れを理解させ、けじめをつけて授業を展開していく。 （個別指導）机間指導の際は、クラス全員に声掛けするように心掛ける。 （実技指導）作業で困っている生徒には、実演して見せたり、適切にヒントを与えたり、サポートする。 （生徒評価）改善された事や、よくなった点を見逃さず、評価し自信をつけさせる。	生徒一人一人のアイディアや作品を丁寧に取り上げ、よい点は褒めて自信をつけさせる。 生徒一人一人の作業の様子を細かく観察し、質問をされる前に声掛けをする。	困っている生徒には、具体的な資料や適切にヒントを与え、サポートする。 短時間教材でワークシート等を作り、回数を重ねて創意し慣れさせていく。	技術的な面で躓いている生徒には、実際に作業して見せる。 本番で失敗することのないよう、練習教材を用意して、技術の底上げをする。 丁寧に机間指導し、生徒一人一人の得手不得手を把握し、適切にサポートする。	製作の確認プリント等を用意し、作業を深く理解させる。 他教科との関連を説明し、理科や数学との相互理解をさせる。
まとめ	（授業規律）挨拶をきちんとさせる。 （自己評価）ワークシートに作業過程と自己評価をまとめさせる。 （本時のまとめ）本時の学習内容を振り返り、次回の課題を確認する。	次回の学習内容を予告し、次回授業への意欲を喚起する。	自分のアイディアや作品を改めて見て、もっとよくする工夫を考えさせる。	ワークシートで自分がやれた事を自覚させ、作品を通して技能の上達を確認させる。	クラスの仲間の作品等を取り上げ、よい点を評価し合う。

様式３

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策（中学校）

教科名	家庭科

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第１学年	・よりよい衣生活を送ろうとする能力と態度を育てるために、衣生活に関する実践的・体験的な学習活動を多く取り入れている。生徒が主体的に考えるための取り組みや話し合いが必要である。	・生徒自身の衣生活について現状を把握させ、課題を見付けさせる。また、実践的・体験的な学習活動実施後に今後の実践につながるようにまとめをさせる。また、発表機会を増やし、他の意見から、気付きや改善策を見付けることが出来るようにする。	実験や視聴覚教材を活用して関心を高め、生活における実践につなげる。
第２学年	・布を用いた物の製作を実施している。毎回、製作手順、時間などの見通しをもたせて製作をさせることが大切である。製作に使用するミシンについては、小学校での学習を踏まえて、使用前の点検、使用後の手入れとしまい方、簡単な調整方法などを指導し、正確に能率よく作業をさせるようにする。	・授業開始時に、毎回の目標を明確に示す。2人に1台のミシンを使用させ、準備、点検、片付けを丁寧に行わせる。交代でミシンを使用させ、待ち時間が長くならぬよう時間を決める。また、ミシンを使用していない生徒は、別課題を行わせ、効率よく実習を実施する。	・住生活との関連を図り、安全に生活する視点から、防災に必要なものを製作する。
第３学年	・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味をもって楽しく遊べる道具を製作させている。製作を通して幼児について理解を深め、これまでの自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付かせるようにさせる取り組みが必要である。	・自分の幼い頃を思い出させる等の成長過程を振り返りながら活動を実施する。絵本完成後、作品を発表する機会を設ける。	・視聴覚教材やロールプレイングを活用して、幼児とのかかわり方を学習する。

様式４

全教科における授業（１単位時間）の配慮点

教科名	家庭科

指　導　技　術		観　点　別　の　授　業　改　善　の　視　点			
教師の指導 授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導		○関心意欲態度を向上させるための手だて	○見方考え方を向上させるための手だて	○現技能の向上をさせるための手だて	○知識理解を向上させるための手だて
導入	（授業規律） 挨拶・授業道具の管理・忘れ物した場合の対応・話の聞き方・実習時の安全 （目標提示） 毎時間、授業のねらいを提示する。生徒に課題をもたせる。	・生徒の身近な題材を導入する。	・日常生活で体験していることを結び付けて考えられようにする。	・教科書やプリントだけでなく、模範作品や実物を提示し、視聴覚教材を活用する。	・基本的な事項は、一斉指導の中で繰り返し、復習する時間を設定する。
展開	（安全指導） 製作に必要な用具の使い方については製作手順に照らし合わせて、どの場面で何を使うのか、使用する際の注意事項も確認し、使用後の点検もさせる。 （作業） 日常生活の体験や、小学校までの既習事項を生かし、見通しをもたせる。 （発問・発言） 話し合い、発表などでお互いの考えを交流する場を設定する。 （板書） 授業内容のポイントを簡潔に板書する。	・理由を考えさせながら学習を進める。 ・良い作品を全体に提示し、意欲を高める。・机間指導で言葉かけをし、個々の意欲を引き出す。 ・自分で工夫したり、考えたりする活動に取り組ませ、主体的に学ぶ意欲をもたせる。	・実物見本で自分の作品と比較できるようにする。 ・個に応じた適切なアドバイスを心がける。	・できるだけたくさんの練習時間を設定する。 ・必要に応じて全体指導だけでなくグループ指導も行う。 ・作品・レポートなどの出来をチェックし次につなげる手直しをする。 ・実技テストを実施し、正確な作業、安全な実習をするための技能を身に付けさせる。	・用具を扱うための知識や理解を確認する。 ・知識を獲得するためのワークやまとめのプリントを工夫する。
まとめ	課題の達成度を確認するとともに、次時につなげる。	・自己評価をさせ、意欲・関心・態度をもたせて次時につなげる。	・手順ごとにポイントの箇所を指導し次時の授業で創意工夫に生かす。	・手順ごとにポイントの箇所を指導し次時の授業で技能の向上に生かす。	・手順ごとにポイントの箇所を確認し知識・理解の定着を図り次時に生かす。